

ハ財産ヲ以テ之ヲ辨濟スヘキ責ナキコトハ民法第一千二十五條ノ規定ニ徴シテ寸毫ノ疑ヲ容レズ是實ニ限定承認ノ效力ニシテ相續人ノ利益ハ頼リテ以テ擁護セラレ、モノトス然リ而シテ法律ニ於テハ相續人ノ利益擁護ノ規定ト相對シテ被相續人ノ權利ヲ防衛センカ爲ニ相續人ヲシテ裁判所ニ限定承認ノ申請ヲ爲スニ當リテ必スヤ財産目録ヲ調製シテ之ヲ提出セシメ(民法第一千二十六條)限定承認ヲ爲シタル後五日內ニ一切ノ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シテ限定承認ヲ爲シタルコト及ヒ二个月ヲ下ラサル一定ノ期間內ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告セシメ特ニ其公告ニハ債權者カ期間內ニ申出ヲ爲サ、ルトキハ其債權ハ計算ヨリ除外セラルヘキ旨ヲ附記シ且知レタル債權者ニハ各別ニ其申出ヲ催告セシム(民法第一千二十九條)ル等ノ規定ヲ設ケタリ然レハ則チ相續人カ限定承認ヲ爲シタル場合ニ於テハ相續債權者ハ其債權全額ノ辨濟ヲ得ルコトヲ必スヘカラサルコトハ必至ノ理ニシテ民法第一千三十條第一千三十一條第一千三十七條ノ如キハ之ヲ豫期シタル規定ニ外ナラスト謂フヘシ由是之ヲ觀レハ原判決ニ於テ上告人ハ限定承認者ナル事實ヲ確定シ且其相續財産ハ總債務額ノ十分一ニ過キサザル旨ノ抗辯アリシニ拘ラス相續財産ハ果シテ原院カ辨濟ヲ命シタル本訴債權ノ全額ヲ適法ニ辨濟スルニ足ルヤ否ヲ判斷セス且無限ニ其辨濟ヲ命シタルハ要スルニ限定承認ニ關スル規定ヲ不當ニ適用セサル不法アルニ非サレハ理由ヲ付セサル不法アル裁判タルコトヲ免レズ

上來判示スル如キ理由アルヲ以テ民事訴訟法第四百四十七條第一項及ヒ第四百四十八條第一項ノ規定

ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス

○訴訟手續受繼申立ノ件

明治三十九年(丙)第四百五十六號
明治三十九年十二月二十七日第一民事部判決

●判決要旨

一 終局判決ノ送達後訴訟手續カ中断セラレタルトキハ承繼人ノ受繼ニ關スル書面ハ上訴ヲ受クヘキ裁判所ニ之ヲ提出スヘキモノトス

故ニ相手方カ承繼人ヲシテ受繼ヲ爲サシメントスル申立モ亦同裁判所ニ之ヲ爲スヘキハ當然ナリ

第一審 長野地方裁判所 第二審 東京控訴院

上告人 百瀬勝耶 訴訟代理人 岡崎正也

被上告人 平林イッ

右當事者間ノ訴訟手續受繼申立事件ニ付東京控訴院カ明治三十九年六月二十三日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シ且被上告人ハ期日出頭セサルニ付闕席ノ儘判決アリ度キ旨

訴訟手續ノ受繼ニ關スル書面ノ提出

申立タリ

判決

原判決ヲ破毀シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ東京控訴院ニ差戻ス

理由

上告理由ハ上告人ヨリ被上告人先代平林ことニ係ル長野地方裁判所明治三十六年(ワ)第一二八號本件株券名義書替請求事件ニ付右平林ことハ明治三十六年十二月七日死亡シタルモ其訴訟代理人ニ於テ委任消滅ノ通知ヲ爲サスシテ第一審ノ終局判決ヲ受ケ明治三十八年八月十九日該代理人ニ於テ判決正本ノ送達ヲ受ケタルヲ以テ茲ニ右事件ノ委任消滅シ訴訟手續ノ中斷ヲ來シタルコトハ右事件訴訟記録竝ニ被上告人ノ戶籍謄本ニ徴シ明カナリ而シテ民事訴訟法上所謂終局判決トハ或審級ニ於テ訴訟事件ノ全部又ハ一部ヲ終了セシムルノ判決ヲ指稱スルモノナルヲ以テ隨テ或訴訟事件ニ付終局判決アリタル場合ニ於テハ之ト同時ニ訴訟事件ハ當然其審級ヲ脱離スルモノト云ハサル可カラス果シテ然ラハ本件ニ付長野地方裁判所ニ於テ既ニ第一審ノ終局判決ヲ爲シタル以上ハ該事件ハ之ト同時ニ同裁判所ノ繫屬ヲ離レ當然ノ結果トシテ之ニ對スル控訴ヲ受理ス可キ上級審タル東京控訴院ニ繫屬セルモノナルカ故ニ上告人カ原院ニ對シテ本件訴訟手續受繼ノ申立ヲ爲シタルハ毫モ不法ノ廉ナキニ不拘右株券名義書替請求事件ノ判決ニ對シ未タ控訴ノ提起ナキカ故ニ該事件ハ原院ニ繫屬セストノ故ヲ以テ本件申立

ヲ不適法ナリト判定セラレタル原判決ハ即チ法則ヲ誤解セル不當ノ裁判ナリト信スト云フニ在リ仍テ按スルニ上訴ヲ許ス終局判決ノ言渡アルモ未タ其判決ノ當事者ニ送達セラレサル限リハ當事者ハ控訴又ハ上告ヲ爲シ適法ニ其訴訟ヲ上訴裁判所ニ繫屬セシムルコト能ハサルヲ以テ斯カル場合ニ於テ訴訟手續ノ中斷セラレタルトキハ受繼ニ關スル書面ノ提出及ヒ相手方ノ申立ハ判決ヲ爲シタル裁判所ニ之ヲ爲サハル可カラスト雖モ既ニ判決ノ送達アリタル以上ハ當事者ハ最早隨意ニ控訴又ハ上告スルコトヲ得ルト同時ニ其訴訟ノ繫屬スヘキハ獨リ上訴裁判所ノミニ限ルカユヘニ此場合ニ於テ訴訟手續ハ中斷セラレタルトキハ承繼人ノ受繼ニ關スル書面ノ提出ハ上訴ヲ受クヘキ裁判所ニ之ヲ爲スヘキハ本院ノ判例(明治三十四年オ第三六五號同三十五年四月二日民事聯合部判決)トスル所ナレハ相手方カ承繼人ヲシテ受繼ヲ爲サシメントスル申立モ亦同裁判所ニ爲スヘキハ理ノ當然ナリ抑上告人ハ長野地方裁判所明治三十六年ワ第一二八號株券名義書替請求事件ノ原告ニシテ同裁判所ニ於テ勝訴ノ判決ヲ受ケタルモノナリ又其被告平林ことハ該事件カ長野地方裁判所ニ繫屬中即チ明治三十六年十二月七日死亡シタルモノニテ同人ノ訴訟代理人ニ於テ別ニ委任消滅ノ通知ヲ爲サ、リシ爲メ引續キ審理判決ヲ經テ後チ其判決カ被告ノ訴訟代理人ニ送達セラレ茲ニ委任ノ消滅ニ歸シ訴訟手續ノ中斷セラレタルコトハ記録ニ徴シテ明カナリ而シテ上告人ハことノ承繼人タル被上告人ニ訴訟ヲ受繼セシメントシテ本件ノ申立ヲ爲スモノナレハ上訴裁判所タル原院ニ之レカ申立ヲ爲シタルハ前説明ノ如ク正當ナルニ

訴訟手續ノ受繼ニ關スル書面ノ提出

拘ハラス原院カ前示株券名義書替請求事件ニ付未タ控訴ノ提起ナキヲ理由トシ上告人ノ申立ヲ却下シタルハ之ヲ不法ト爲サ、ルヲ得ス

右ノ如クナルニ因リ本上告ヲ理由アリトシ民事訴訟法第四百四十七條第一項第四百四十八條第一項ニ從ヒ主文ノ如ク判決スルモノナリ

○小切手金償還請求ノ件

明治三十九年(カ)第五百七十七號
明治三十九年十二月二十七日第一民事部判決

○判決要旨

一 償還請求ヲ爲サントスル手形所持人カ滿期日又ハ其翌日拒絕證書ヲ作成セシメタルトキハ該請求ノ通知ハ滿期日ノ翌日又ハ滿期日後二日目マテニ之ヲ發送セサルヘカラス

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

上告人 阿部鐵之助 訴訟代理人 山浦橋馬

被上告人 小倉繁次
外一名

右當事者間ノ小切手金償還請求事件ニ付東京控訴院カ明治三十九年十月八日言渡シタル判決ニ對シ上告人ヨリ全部破毀ヲ求ムル申立ヲ爲シタリ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告理由ハ原院ノ判旨ハ「商法第四百八十七條ニ依レハ手形ノ所持人カ償還請求ヲ爲スニハ拒絕證書作成ノ翌日マテニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス作成ノ翌日トハ現ニ拒絕證書ヲ作成シタル日ノ翌日ト云フ意義ニシテ作成期間ノ翌日ト云フ意義ニアラサルヤ勿論ナリ拒絕證書ノ作成ハ滿期日又ハ其後二日內ニ爲シ得ヘキカ故ニ期間ノ最終ニ作成シタルトキハ償還請求ノ通知ハ其翌日即チ滿期日後三日目ニ發スルヲ以テ足ルト雖モ苟モ其以前ニ拒絕證書ヲ作成スルトキハ必ス作成シタル日ノ翌日マテニ償還請求ノ通知ヲ發セサルヘカラス云々」ト云フニアルモ舊商法第七百八十一條ニハ明カニ過去ノ辭ヲ以テ「前畧其通知ハ拒絕證書ヲ作リタル日ノ翌日」ト規定シアリシヲ現行商法第四百八十七條ニハ之レヲ改正シテ「前畧拒絕證書作成ノ翌日マテニ云々」ト現在辭ヲ以テ之レヲ規定シタルモノナリ去レハ之ヲ舊商法七百八十一條ノ如ク作成シタル日ノ翌日ト解スルハ先入主タル舊法ノ規定ヲ以テ新法タル現行法ノ規定ヲ解シタルノ誤リアルノミナラス又舊商法七百八十一條改正ノ理由ヲ考量ノ外

ニ置キタル過チヨリ出テタル不當ノ解釋ナリト信ス而シテ又原院ニ於テハ手形ノ何タルヲ問ハス又孰レノ場合タルトヲ問ハス總テ手形金額ノ支拂ハレサルトキハ悉皆拒絕證書ハ作成セラル可キモノト誤解セラレタルハ前畧「拒絕證書ノ作成ハ滿期日又ハ其後二日內ニ爲シ得ヘキカ故ニ期間ノ最終ニ作成シタルトキハ償還請求ノ通知ハ其翌日即チ滿期日後三日目ニ發スルヲ以テ足ルト雖モ苟モ其以前ニ拒絕證書ヲ作成スルトキハ必ラス作成シタル日ノ翌日マテニ償還請求ノ通知ヲ發セサル可ラス」トノ理由ニ徴スルモ明カニシテ絶テ商法第四百八十九條規定ノ其作成ヲ免除シタル場合ニ想到セラレサリシハ洵ニ明瞭ナリトス然レハ原院ニ於テハ拒絕證書作成免除ノ場合ハ何レノ日迄ニ償還請求ノ通知ヲ發セハ可ナリトセラル、乎將又何等ノ通知ヲモ發セサルモ可ナリトセラル、乎此場合ハ法文上別ニ明文ノ徴スヘキモノナシト雖モ既ニ商法第四百八十七條ニ「前畧拒絕證書作成ノ翌日迄ニ」ト規定シテ滿期日後二日ノ猶豫ヲ與ヘアレハ猶豫期日ノ翌日即チ滿期日後三日目迄ニ償還請求ノ通知ヲ發セハ可ナルモノト解スルハ何人モ殆ト同一ニシテ恐クハ一人ノ異說ヲ唱道スルモノナカル可シト信ス果シテ然レハ「作成ノ翌日」トアル現在辭ハ之ヲ原院説明ノ如ク作成シタルノ翌日ト解スルトキハ前記拒絕證書作成免除ノ場合ハ拒絕證書ハ作成セラレサルヲ以テ得テ解ス可ラサルニ至ルコト自ラ明カニシテ又時効ヲ起算スルニ當リテモ原院ノ説明ニ遵據スルトキハ拒絕證書ノ作成セラレタル日ノ翌日ヨリ起算スルコト、ナルヘキモ若シ拒絕證書ヲ作成セラレサルトキハ何ノ日ヲ以テ起算點ト爲スノ意ナル乎解

ス可ラサルニ至ルヘシ既ニ御院ノ判例明治三十七年(オ)第百〇五號明治三十七年四月二十八日第一民事部判決約束手形金請求ノ件及ヒ明治三十七年(オ)第五百二十四號明治三十七年十二月六日第一民事部判決約束手形金請求事件等ニ於ケル説明ニ於テモ「約束手形ノ所持人カ支拂ノ請求ヲ爲サントスルニハ手形ノ滿期日又ハ其後二日內ニ之カ請求ヲ爲スコトヲ得ヘク支拂拒絕證書作成ノ義務ヲ免除セラレタルカタメ右期間ノ短縮ヲ來スヘキモノニ非ス隨テ振出人カ支拂ヲ爲サルカタメ所持人ニ於テ其前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲サントスルニハ滿期日後二日即チ支拂拒絕證書作成期間ノ翌日迄ニ償還請求ノ通知ヲ發スルヲ以テ足ルヘク拒絕證書作成義務ヲ免除セラレタル場合ナルト否トニヨリ右期間ニ何等ノ影響ヲ及ホスヘキモノニ非サルナリ云々」トノ理由ヲ以テ判斷セラレタルハ頗ル肯綮ヲ得タルモノトシテ敬服スル所ナルニ原院ニ於テハ此理由ヲ解セスシテ商法第四百八十七條ヲ解スルニ方リ之ヲ舊法ノ規定ト同一ニ解シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル不法ノ裁判ナリトスト云フニ在リ然レトモ商法第四百八十七條ニハ「所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ(中畧)滿期日又ハ其後二日內ニ支拂拒絕證書ヲ作ラシメ且償還ヲ爲サシメント欲スル者ニ對シ拒絕證書作成ノ翌日マテニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス」トアリテ拒絕證書ハ滿期日又ハ其後二日內ニ作成スヘク償還請求ノ通知ハ拒絕證書作成ノ當日又ハ其翌日ニ發送スヘキコトヲ規定セルヤ洵ニ明瞭ナリ之ヲ換言スルニ拒絕證書ノ作成ニ付テハ滿期日ヨリ其後二日マテヲ以テ期間トシ償還請求ノ通知發送ニ付テハ拒絕

證書作成ノ當日ヨリ其翌日マテヲ以テ期間トスルモノナレハ滿期日後二日目ニ拒絕證書ヲ作成セシメ
 タルトキハ償還請求ノ通知ハ其翌日即チ滿期日後三日目ニ發送スルモ不可ナシト雖モ滿期日又ハ其翌
 日拒絕證書ヲ作成セシメタルトキハ償還請求ノ通知ハ滿期日ノ翌日又ハ滿期日後二日目マテニ發送セ
 サル可カラサルコト自カラ明カナリ而シテ本件上告人カ被告人ニ對シ償還請求ノ通知ヲ發送シタル
 ハ上告人カ支拂人ヲシテ支拂拒絕ノ旨及セ其年月日ヲ小切手ニ記載セシメタル明治三十八年五月二十
 日又ハ其翌日ニ非スシテ同月二十二日ナルコトハ原院ニ於テ確定セル事實ニシテ通知ノ發送ハ既ニ其
 期間後ニ係ルカユヘニ原院カ上告人ハ法定期間内ニ償還請求ノ通知ヲ發セサリシ爲メ償還請求ノ權利
 ヲ失ヒタルモノナリト判定シタルハ毫モ不法ニアラス拒絕證書作成ノ免除アルニ因リ之ヲ作成セサル
 トキハ滿期日後三日目ニ償還請求ノ通知ヲ發送シテ可ナルコトハ上告人所論ノ如ク本院ノ判例トスル
 所ナレトモ是レ唯斯カル場合ニ於ケル通知發送ノ期限ハ拒絕證書ヲ期間ノ最終日即チ滿期日後二日目
 ニ作成セシメタル場合ト同一ニシテ免除アルカ爲メ期間ニ影響ナシトセシ迄ニテ現ニ滿期日又ハ其翌
 日拒絕證書ヲ作成セシメタルトキモ尙ホ滿期日後三日目ニ償還請求ノ通知ヲ發シテ可ナリトシタルニ
 非サレハ此判例アルニ依リ原院ノ裁判ヲ不法ナリト爲ス可カラス又本件ハ拒絕證書ノ作成ニ代ヘ支拂
 拒絕ノ旨ヲ小切手ニ記載セシメタル場合ナルカユヘニ原院モ專ラ拒絕證書ヲ作成セル場合ニ付テノミ
 説明ヲ爲シタルモノナルコト疑ナケレハ單ニ之ヲ作成セサル場合ニ付説明ナキノ故ヲ以テ原院カ如何

ナル場合ニ於テモ拒絕證書ヲ作成スルモノト誤解シタリト謂フ可カラス要スルニ本上告ハ其理由ナシ
 因テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ

○大審院民事部裁判長及部員氏名表

第一民事部

裁判長	富谷銈太郎
部長	馬場愿治
部員	伊藤悌治
	志方鍛
	田上省三
	小山温
本部ノ開廷	
火曜日	
木曜日	
土曜日	
本部ノ所管	

民事部判事氏名表

人事、米穀、物品、證券、金錢、第二民事部所管ニ係ルモノヲ除ク外ノ抗告

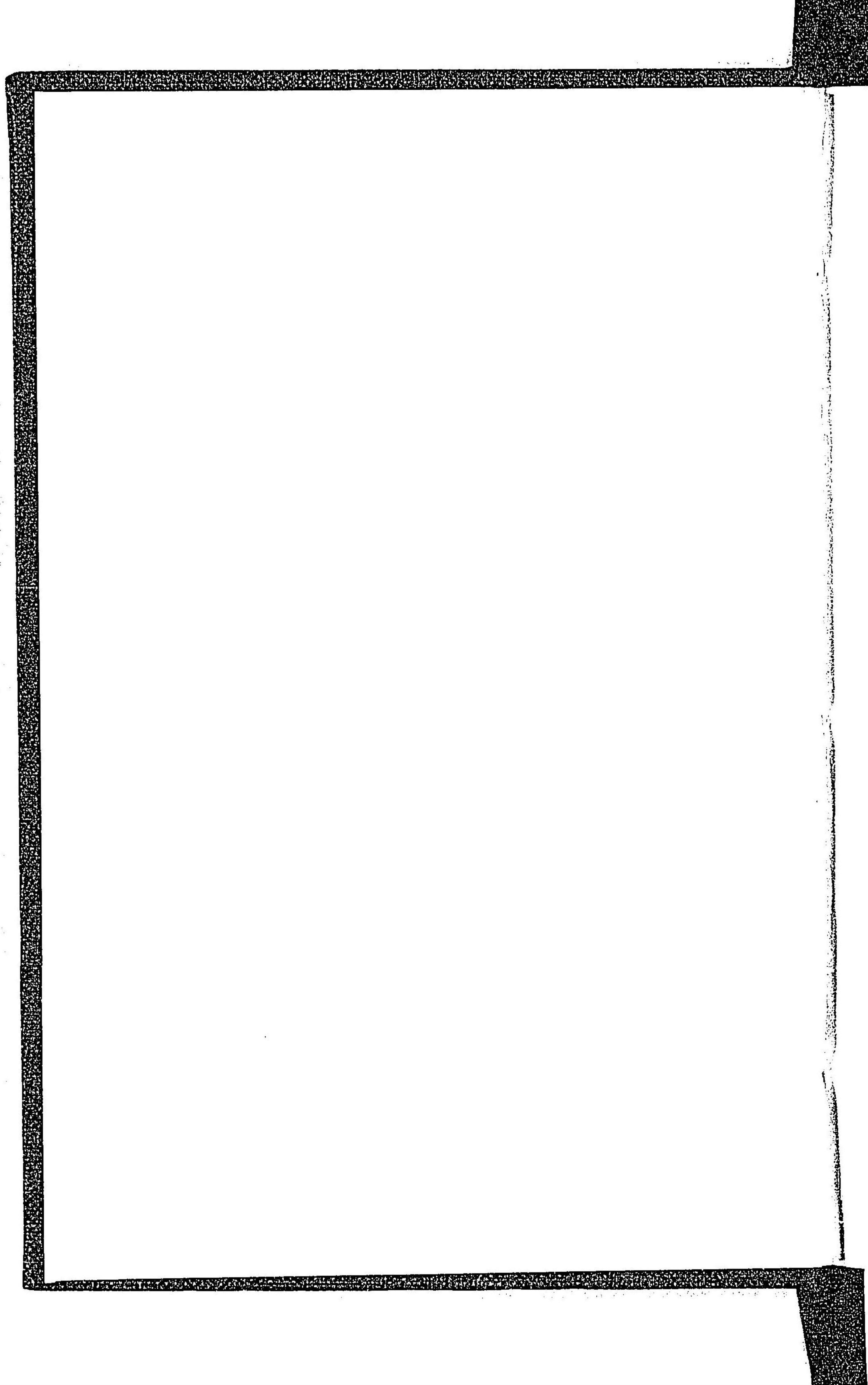
第二民事部

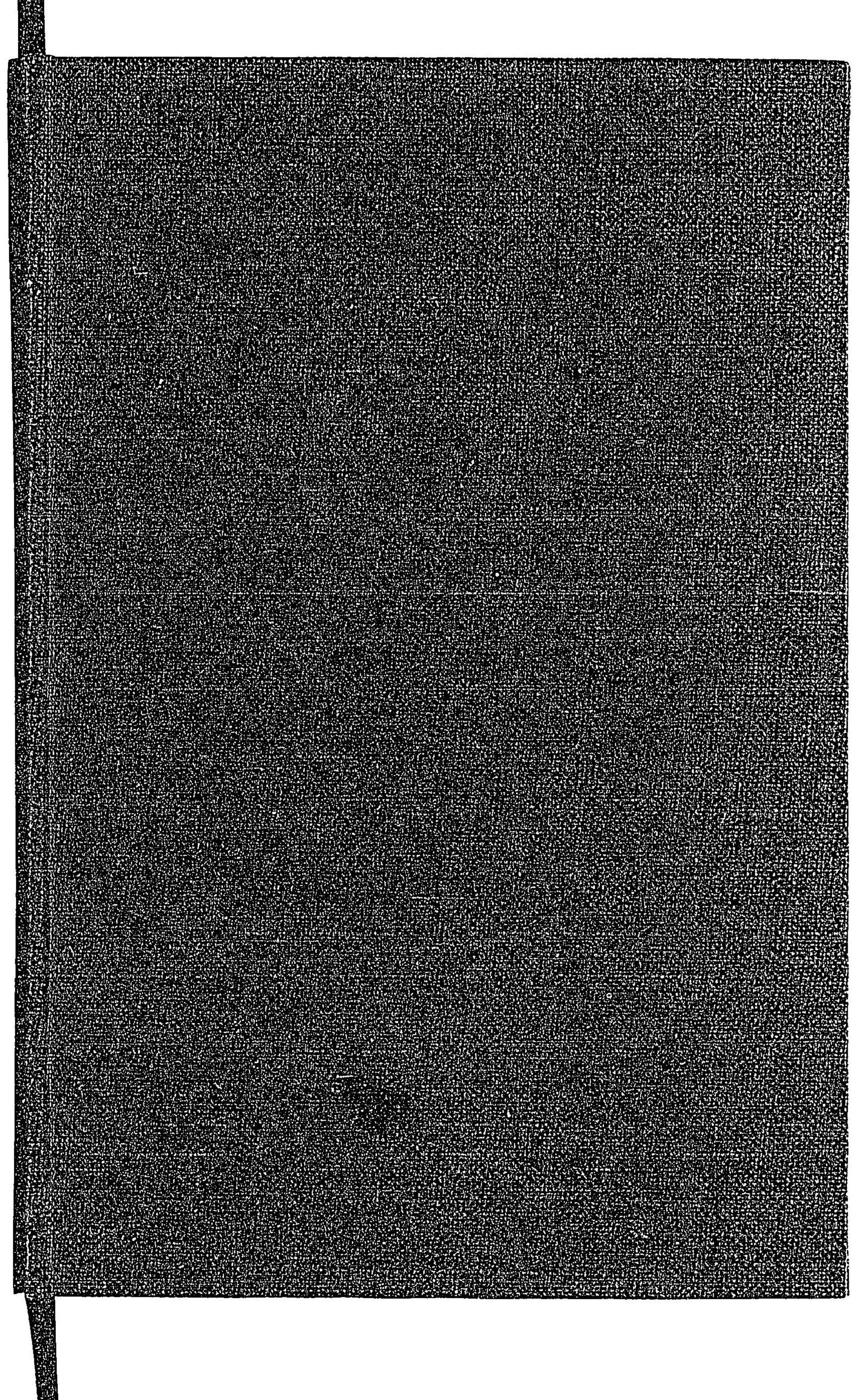
裁判長	田部芳
部長	今村信行
部員	掛下重次郎
	清水一郎
	大倉鈕藏
	神原幾久若
本部ノ開廷	
月曜日	
水曜日	
金曜日	

民事部判事氏名表

本部ノ所管

地所及水利、建物及家賃、損害要償、雜事
地所水利建物家賃損害要償及不動産競
賣ニ關スル抗告





324.098

D.17d3

036567-012-4

CZ-2811-10

大審院民事判決録 第1-18輯

中央大学

M28-45

BBR-0658



